



## 「働き手を求める祈り」

東関東中会 船橋高根教会牧師

小峯 明 (神学校理事)

青森伝道所、石巻伝道所、白石契約伝道所、八戸伝道所、六戸伝道所、亙理伝道所、銚子栄光教会、宇都宮教会、湘南恩寵教会、田無教会、秩父教会、横浜教会、春日井教会、中津川伝道所、瑞浪伝道所、堺みくに教会、滋賀摂理教会、西神教会、和田山伝道所、高松教会、丸亀伝道所。さらに、坂戸教会所属新潟伝道所、四日市教会所属桑名伝道所、大阪教会所属高槻伝道所、千里山教会所属めぐみキリスト伝道所。

これらの教会伝道所に共通なことは何でしょうか。定住の伝道者、牧師のいない状況です。すべての教会伝道所が同じ状況ではありません。すぐに後任の働き人を招くことのできる教会伝道所もあれば、諸般の事情を整える必要のある群れもあります。しかし、どの教会伝道所にも代理牧師、代理宣教教師として奉仕して下さっている教師、引退教師の先生方がおられます。それらの先生方と役員の方たちの奉仕により礼拝と教会活動が一部を除いて守られています。そして既に後任の働き人の目処がついている教会伝道所もあると思います。

主イエスは、マタイによる福音書9:38で「働き手を送ってくださるよう、収穫の主に願いなさい」と弟子たちに命じておられます。その理由としてマタイ福音書は「群衆が飼い主のいない羊のように弱り果て、打ちひしがれているのを見て、深く憐れまれた」主イエスの御姿を伝えています。「深く憐れまれた」と訳された言葉は、マタイ福音書では14:14(大勢の群衆に対して5,000人

給食)、15:32(大勢の群衆に対して4,000人給食)、18:27(負債に苦しむ家来を憐れむ王の姿)、20:34(二人の盲人に対して)で用いられ、ルカ福音書では、よきサマリア人の譬えで、倒れていた旅人を憐れに思って助けたサマリア人の姿を語る箇所と、放蕩息子の父親の姿として用いられています。

今も、わたしたちと諸教会のまわりには、飼い主のいない羊のように弱り果てた人々がいます。わたしたちは、その人々に福音を伝えるために遣わされています。そして、主はそれらの方々に福音を伝え、まことの羊飼いとしてわたしたちを養うために各地に教会を建てて下さいました。ですから、教会には主イエスの憐みの働きを担う働き手が必要です。

その働き人を求める前に、主イエスは、「収穫は多い」と言われました。既に主の福音の種がまかれているところに収穫は約束されています。「収穫は多いが、働き手が少ない。」だから、わたしたちも、主の約束に信頼して、「収穫のために働き手を送ってくださるよう、収穫の主に願い」ましよう。主は「願いなさい」と命じておられます。

その祈りに答えて、現在、来年度の入学の問い合わせが2年制、4年制合わせて10件ほどあるとのこと。問い合わせた方全員が入学されるとは限りませんが、わたしたちも、主の深い憐みの眼差しを心に刻んで、働き手を送ってくださるよう重ねて祈りたいと思います。「収穫は多い」と主イエスが約束して下さるからです。



2017年7月～8月

# 夏期伝道報告



本科生 3年生

**長谷部 真**  
(はせべ まこと)

東北中会 仙台教会

主の御名を賛美します。私は7月は四国中会の岡山西伝道所、8月は西部中会の西神教会で、それぞれ一ヶ月間お世話になりました。昨年9月に二年次編入でお世話になっている私にとって、今回は最初で最後の夏期伝道となりました。初めての土地の教会に住みこみの奉仕に、畏れと不安を抱きながら臨みました。しかしこの2ヶ月間はとても恵み豊かなもので、貴重な時間と経験となりました。2ヶ月、神様から頂いた恵みの一部を報告させていただきます。

7月の一ヶ月間は四国中会の岡山西伝道所の皆様にお世話になりました。岡山西伝道所の中田稔先生と会員の皆様にお世話になり、多くの奉仕をご一緒させて頂きました。岡山西伝道所では主に毎主日の朝礼拝の説教と、水曜祈祷会の奉仕、

日曜学校のイベントの奉仕をいたしました。岡山西伝道所での交わりも温かく、四国中会の皆様との交わりも頂きました。夏期伝道前の不安も消え、主にある教会の交わりの温かさに励まされました。

8月の一ヶ月は西部中会の西神教会でお世話になりました。西神教会では日曜学校のお話、午後礼拝での説教、水曜祈祷会の奉仕をいたしました。礼拝後、長老とのお交わりの中で教会の奉仕に関してご助言を頂きました。西神教会の夏期学校にもご一緒し、メッセージと小学生の分級で教える機会を頂きました。西神教会では日曜学校の子供達や、会員の皆様お一人お一人が御言葉に熱心に聞く姿に励まされました。8月は西部中会合同夏期学校や中高生キャンプの Summer Days 2017の奉仕を通し、主なる神様と主にある兄弟姉妹に仕える喜びを実感しました。

多くの兄弟姉妹の祈りと励ましに支えられ、御言葉の奉仕への畏れと喜び、福音宣教への召しを一層固くしました。また今自分に何が出来るのかを考える機会にもなりました。今後も主に仕える学びと訓練に励みます。この夏お世話になりました皆様に感謝をこめて。主に在りて





## 夏期伝道派遣教会

- 長谷部真 : 岡山西伝道所 / 西神教会
- 三輪誠 : 浜松伝道所 / 横浜教会
- 金エノク : 横浜教会
- 金慧眞 : 高松教会
- 木村英樹 : 新潟伝道所 / 吉原富士見伝道所
- 金原 堅二 : 滋賀摂理教会 / 新潟伝道所
- 小河 敬太 : 大屋伝道所 / 和田山伝道所

本科生 3年生

**三輪 誠**

(みわ まこと)

東部中会 東京恩寵教会



今回の夏期伝道では、7月は中部中会の浜松伝道所に、8月は東部中会の横浜教会に遣わされました。家族と共に教会に住みながら奉仕をいたしました。毎主日、教会に兄弟姉妹をお迎えし、皆様が礼拝の恵みに与って世に送り出されていく姿を拝見するなかで、教会は信徒の方々が神の御許に帰ってくる場所であるのだと思われました。平日においては、教会の近所の方々と接する機会が与えられました。7月の浜松伝道所では、近所の児童館へ息子を連れていきましたので、同世代の子供を持つ方々との出会いが与えられました。また8月は雨の日が多かったため、教会の軒下に雨宿りをする方々とお話する機会が与えられました。このように出会った方々との会話の中で、教会の活動や礼拝について話題になることがしばし

ばありました。教会に住むことを通して、キリストが世に示されていくことを実感した二か月間でした。

また、家族一緒に教会に住むことで、想定外の出来事も起こりました。息子が手足口病になり、私自身も熱を出し寝込んでしまいました。その際には、教会員の皆様に様々なご配慮をいただき、また祈っていただきました。そのおかげで不十分ながらもなんとか奉仕をすることができました。教会員の皆様の支えがなければ、夏期伝道の二か月間の奉仕を終えることは決してできませんでした。牧師という務めが、信徒の方々の祈りと支えと、何よりも主の憐みなくしては成り立たないことを思わされた二か月間でした。そしてこの気づきこそが、私が夏期伝道で学んだ一番大きな収穫でした。当たり前なことではありますが、様々な奉仕をするなかで、このことを忘れがちであったように思います。夏期伝道でお世話になった皆様からいただいた多くの支えと祈りを通して、この大切なことを改めて思い起こさせていただく機会となりました。この経験を覚えつつ、主の御前に謙遜に、神学校での学びに励んでまいりたいと思います。





別科生 3年生

**金(キム) エノク**

日本福音宣教会(JEM)宣教師

神学校3年生の金エノクと申します。今回、夏期伝道の奉仕をさせていただき、心から感謝を捧げます。今年、3月に横浜教会の夏期伝道が決まり、4年近く無牧教会である横浜教会のために1か月間何ができるのか、祈りながらドキドキする心で準備をいたしました。関東にある改革派教会は初めてでしたので、少しは緊張していましたが、教会の皆様の暖かい歓迎を受け、毎回の交わりの中でとても豊かな1ヶ月を過ごしました。私は5回の日曜学校のお話、2回の大人礼拝の中で子供の説教、5回の大人礼拝の奨励、4回の水曜祈禱会の奨励を致しました。毎回のお話と奨励はとても緊張の時間でもありましたが、またとても恵みの時間でもありました。教会の牧師館に住みながら、ずいぶん祈りと準備に励むことができました。

たので、毎日が恵み豊かな時間でした。定住牧者の心を少しは感じた気分でした。

横浜教会の日曜学校は未信者のご両親と子ども達が毎週礼拝に参加していました。それはとても珍しいことでした。毎週、未信者の子ども達とご両親が20人以上参加するときもありました。私はその人々が愛のイエス様、恵み豊かなイエス様に会うことができるように、心から祈りながらお話を準備いたしました。また、アートセラピーの行事を用いて、大人と子ども達の癒しの時間を送りました。準備のために奉仕して下さった教会の方々に感謝を捧げます。そして、多くの集まりや交わりに参加しながら、婦人の方々と教会の信徒たちと、信仰についての話、教会共同体についての深い話をしました。教会をととても愛しておられる信徒たちの心がよく伝わってきました。

7月1ヶ月の横浜教会での歩みはとても恵み豊かな時間でした。主がその教会の一人一人を愛しておられることを毎瞬間、心から感じる1ヶ月でした。良き交わりと奉仕の時を与えて下さった神学校と横浜教会に心から感謝を申し上げます。ありがとうございました。



別科生 3年生

**金 慧眞**  
(キム ヘジン)



3年生の金ヘジンと申します。夏期伝道は8月の一ヶ月だけで四国の香川県にある高松教会にお世話になりました。去年に続き、2回目の夏期伝道として、神様の大きい助けを頂きながら、良き訓練の一時になりました。教会はとても立派な3階建てで、1階の牧師館で生活をさせていただきました。教会の周辺には住宅や小学校、スーパーがあって環境的にもとても恵まれています。今年8



月から無牧教会になりまして、多くのお祈りをお願いいたします。奉仕としては、4回の朝拝の奨励と教会学校のお話と水曜日の聖書研究祈祷会がありました。主日は、コロサイの信徒への手紙から神様の御言葉を説き明かしました。水曜祈祷会は3回あり、連続講解よりは各々の箇所から神様の御言葉に耳を傾けようと思いました。毎週、苦勞をしながら準備しましたが、自分の足りなさを感じる時間でした。しかし、同時に、助けてくださる神様の恵みと教会の方々の支えと良きアドバイスがありました。その助けによって、励まされ、前に進むことができました。

教会の奉仕以外には、四国中会バイブルキャンプに参加し、2回のお話をさせていただきました。純粋な子供たちの姿を見ながら、福音を伝える



大切さと神様の愛を伝えたいという思いが強められる時間でした。また、教会では様々の交わりが許され、主の中での恵みがありました。神様の中での交わりがどれほど喜びに満ちているのかを再び感じました。すべての交わりが学びとなり、教会を少しずつ知ることができたのではないかと思います。

このような夏期伝道を通して、御言葉を伝えるという大切さと神様が御言葉を通して働かれるという恵みがよく分かりました。主イエス・キリストの福音を伝える時に罪から回心して帰って来る人々を見る日を心より待ち望んでいます。その働きを成し遂げてくださる神様をほめたたえます。また、お祈りで覚えてくださった皆様にも感謝を申し上げます。



本科生 2年生

**木村 英樹**

(きむら ひでき)

中部中会 関キリスト教会

この夏、初めて夏期伝道実習の機会が与えられました。派遣先は7月に東部中会・新潟伝道所、続いて8月に中部中会・吉原富士見伝道所でした。自家用車で移動したのですが、地図で確かめて、実際に現地に赴いて心に留めたことは、両教会が中会の中心から遠隔地にあるということでした。中会の諸教会や多くの先生方の協力があつたこと

を心に留めました。中会というあり方の強みを覚えましたが、やはり皆さまがご自分の教会を愛しているからこそ、今日の新潟伝道所、吉原富士見伝道所があるのだと思いました。興味深く思ったのは、奉仕しておられる先生の姿が教会の皆さんに影響を与えていることです。片岡先生の伝道熱心が新潟伝道所の皆さまの外向きな姿勢を生んでいたのだと思いますし、羽野先生ご夫妻の細やかなケアが吉原富士見伝道所のお互いをいたわり合う交わりを作っていたのだと思います。教会の働き人に求められることは、与えられた召しと神さまを愛し教会を愛することだと教わりました。

奉仕内容は主に、礼拝と祈祷会での奨励でした。さらには、新潟伝道所では、教理クラス、トラクト配布、個人伝道の機会や、坂戸教会との講壇

交換の機会もいただきました。吉原富士見伝道所では、委員会陪席、子ども集会、家庭集会、施設におられる教会員の訪問など、さまざまな教会の働きを見せていただきました。羽野先生との学びの時間も設けていただきました。私は他教派から移って来た者ですが、両教会が教理の学びを重んじていることに気づきました。そこはゆるがせにできないところで、改めて神学校での普段の学び

の姿勢を振り返りました。

2ヶ月の間、祈り支えられて伝道する喜びを味わわせていただいたと同時に、教会に身を置いて生活し、伝道する重みを垣間みさせていただきました。誠に至らない奉仕であったことをお詫びします。と同時に、この機会を与えてくださった両教会の皆さまと神学校、何よりも神さまに感謝します。



本科生 2年生

**金原 堅二**

(きんばら けんじ)

西部中会 鈴蘭台教会

主の御名を讚美致します。私は7月に滋賀摂理教会、8月に新潟伝道所に遣わされました。初めての夏期伝道でありましたが、2ヶ月間、多くの祈りと励ましの言葉に支えられ、奉仕を為すことができましたことを心より感謝致します。

7月に遣わされた滋賀摂理教会は、毎週の朝拝の奨励奉仕に加え、日曜午後祈祷会、一日親睦会、CSのイベントでのメッセージなど、御言葉の奉仕をする機会をたくさん与えてくださいました。私はそれまで朝拝の講壇に立ったことがありませんでしたから、この期間は本当に実り豊かな学びの場となりました。どのようにして聖書の御言葉と向き合い、神様が語る言葉をどのように受け取り、分かち合うのか。朝拝で語る言葉、子どもたちに語る言葉、その一つ一つを考え、懸命に取り組むことは、私にとりまして大きな糧となりました。そして何よりも日曜日に集う方々との交わりを通していつも励まされ、献身の思いを強められました。また、生活の細かい点に至るまで気にかけてくださったことを改めてお礼申し上げます。





8月に遣わされた新潟伝道所では、毎週の朝拝の司式・奨励奉仕に加え、午後の学び会、木曜祈禱会の機会が与えられました。集う方々と、信仰生活について分かち合う中で、イエス様の福音が私たちの中で働クリアリティを思わせられ、私の、神学についての足りなさを思われると同時に、御言葉のもつ力強さを改めて感じさせられた期間でありました。関西で育った私が慣れていない地域で生活することを気遣って、新潟の魅力をたく

さん教えてくださったこと、心から感謝致します。ひとつの地域の中でキリストの福音とともに生きることの素晴らしさを思わせられました。

すべてを書き記すことはできませんが、ひとつひとつの経験が、私にとりまして大きな糧となりました。ここで経験したことをいつも覚え、神学校での学びを大切に積み上げていきたいと願います。今後とも、宜しくお願い致します。

別科生2年生

小河 敬太

(こがわ けいた)

日本福音キリスト教会連合



私は大屋伝道所と和田山伝道所に2ヶ月間派遣していただきました。7月は大屋伝道所での奉仕で最初の礼拝の日に「皆さん、5分間で福音をハートに打ち込みますので、仕事仲間、ご家族、ご近所に私を紹介して下さい」とお伝えしました。沢山の方々を紹介していただき夏期伝道期間限定で複数の家庭集会をさせていただきました。また農村地帯でするのでほとんどのご家庭で田畑を持っておられ、畑仕事などを教えていただきながら御言葉を語らせていただきました。信仰を持ち始める方達も起こされ、主が生きて働いてくださることに感動いたしました。

和田山伝道所では会堂のすぐ裏にテニスコートがあり、地域の方々と接点を持つために長男と次男をソフトテニスクラブに入会させ子供集

会を試みました。しかし8月の終わりに集会をしました。情報が不足だった事で時間設定を地域の子供が集まりにくい時間にしてしまい、教会外の子供は集まりませんでした。ところが、集会のビラ配りの時に求道者の方とばったりお会いし「子供のいる家を知っているから私が配るよ」と協力して下さい、その方が子供集会にも来て下さいました。また夏期伝道後もテニスクラブの御父兄とは交流があり、信仰の話をする機会が与えられています。私以上にこの地に伝道しようとしておられる主の情熱がひしひしと伝わってまいります。

今回、若輩者の私の話を未信者の方々が快く聞いて下さったのは、人間関係の濃い地方において大屋伝道所と和田山伝道所の皆さまが日々、全生活を通して良き証をされていたからです。信仰者としての模範を見せて頂き、とても教えられました。また何よりも霊的感化を受けたのは牧師夫妻からでした。禰津牧師は朝5時半から会員一人一人の名前をあげて祈り、勤勉に学ばれ、その姿に襟を正されました。そして和子夫人の野菜たっぷりの美味しいお料理を3食共にご馳走になり、伝道や神学の話に花が咲き、楽しい時を与您していただきました。私にとって夏期伝は牧師御夫妻と教会に支えられ、寝ても覚めても伝道の事ばかり集中して考える事の出来た贅沢な時間でした。



## 第41回夏期信徒講座

2017年7月7日(金) - 8日(土)

於：日本キリスト改革派神港教会



第41回神戸派改革派神学校夏期信徒講座のテーマは、宗教改革500周年を記念するにふさわしく「宗教改革の今日的意義」でした。神戸市内の4つの神学校の代表者による、宗教改革に連なる伝統の共有と互いの個性を生かした貴重な講演と活発な討論とが交わされました。開会礼拝で、神港教会の岩崎謙牧師が、宗教改革は、神の言葉による運動だったこと、語られた神の言葉を受け止める一人一人の人生が神の御言葉が働く召しの場であると、語られました。

神戸ルーテル神学校の正木牧人校長は、「マルティン・ルターの今日的意義」をルターの生涯と信仰から丁寧に説き明かして、福音に生きる自由の喜びが広がっていった波紋を、神が豊かに福音宣教の働きをするために用いられた恵みの器とされる世界史的意義として提示されました。

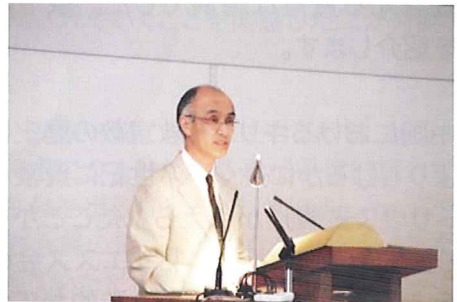
神戸改革派神学校の吉田隆校長は、「ジャン・カルヴァンの今日的意義」をカルヴァンの信仰を、神の絶対的主権に従う道とし、さらに、恩恵による福音の徹底化により、逆境で力を発揮する信仰、個人を越え、社会、国家にもインパクトを与える力を持つものであると、語られました。



同校の袴田康裕教授は、「ウェストminster 告白の今日的意義」を第二次宗教改革期の総合的成果として評価し、その公同的、牧会的性格、さらには、教会の国家に対する使命を証した文書であることを明らかにされました。



神戸神学館からは、「長老主義の今日的意義」について、私が、キリストの仲保者的王権に仕える教会の職務として聖書的に「長老職」を位置付ける視点と神学的理解がどのように、歴史的に展開し、実を結んで来たのかをご紹介します。



関西聖書神学校の鎌野直人校長は、「ウェスレーの今日的意義」を、18世紀の社会的教会的背景から歴史的に考証する必要性、福音を全人格的、全社会的インパクトを持つものとして理解する大切さ、さらに、この福音理解の伝達と広がりの方に、信徒説教者の養成を重視した事実から語られ、信徒説教者と牧師養成のバランスの取れた福音宣教者の育成を今日的課題と指摘されました。



今回の多様性豊かな学びと交わりの恵みを主に、心から感謝致します。また、この企画を実現して下さいました神戸改革派神学校教授会、会場を提供して下さいました神港教会の皆様、快く協力して下さいました、神戸ルーテル神学校、関西聖書神学校、神戸神学館の関係者の皆様にも感謝致します（参加者：のべ123名、講演内容は、リフォームド・パンフレット11号所収）。



坂井純人

日本キリスト改革長老教会東須磨教会牧師  
本校講師（教理史）、神戸神学館教師

## 「中国キリスト教の過去・現在・未来」の講演会報告

9月21日に金陵協和神学院元副院長の王艾明（ワン・アイミン）先生をお迎えし、特別公開講義を行いました。中国のキリスト教の歴史、現状と課題、これからの方向性を知る貴重な講演でした。以下に要旨を紹介します。

中国におけるキリスト教宣教の歴史は日本よりもはるかに長く、7世紀に景教（ネストリウス主義）が伝えられたことから始まります。16世紀末にはイエズス会の中国宣教によりカトリックが一時的な広がりを見せますが、その後の禁令と迫害により衰退しました。続く19世紀にロンドン宣教会が中国に宣教師を送ったことでプロテスタントが中国に伝えられ、また中国語訳聖書が誕生しました。その後中国キリスト教は迫害の時代を迎えます。1950年代以降宣教師が国外追放され、各地の教会は閉鎖に追い込まれました。中国語訳聖書の存在が、この迫害の時代にキリスト教が絶えない力となりました。その後、改革開放政策に伴い1980年前後から各地でキリスト教の礼拝が再開されました。



そして近年キリスト教が急成長を遂げて今日に至っています。このような歴史を経てきた中国の教会が、現在様々な課題を抱えています。まずは信徒数増加による質の問題です。聖書のみを重視し、牧師や神学を軽視する傾向があります。また政治や社会との関わりにも課題があります。中国の教会は、政府公認の三自愛国教会と非公認の家庭教会の二つに大きく分かれています。いずれも教派形成が十分でなく教会の自律性が確立できていません。これらの課題に対して王先生は、カルヴァン主義や改革派神学に基づいて教会政治や職制の整備、教会の自律を図っていこうとしています。

今回の講演を通して、苦難の歴史を経て中国に主の民が多く起こされていることそこに多くの課題があること、その課題の解決のために改革派神学が重要な役割を担っていることを知ることができました。中国の教会を覚えて、祈ってまいりたいと思います。

3年生 三輪 誠







9月5日(火)  
第2学期開講講演会(小峯明先生)

11月17日(金)  
第20回神戸改革派・  
神戸ルーテル神学校合同神学シンポジウム



スポーツ交流会

New Books

1 『神戸改革派神学校史』(神戸改革派神学校編)  
販売価格 2,000円

神戸改革派神学校は、この年、創立70周年を迎えました。これを機に、神学校創立から50周年までの歩みをまとめ、このように出版ができます幸いを感謝したいと思います。(まえがきより)



改革派神学

第43号

神戸改革派神学校創立50周年記念号

2017

編集者

発行所

発行日

発行部数

定価

神戸改革派神学校

〒250-0292 神戸市東灘区東灘1-1-1

TEL 078-241-1111

FAX 078-241-1112

http://www.kksc.jp

2 『改革派神学第43号』(神戸改革派神学校編)  
著者：吉田隆(翻訳)、ステファン・ファン・デアヴァット  
岩崎謙、木下裕也、吉岡契典、袴田康裕  
販売価格 1,500円

開校70周年記念号です。ステファン先生の教授就任記念講演が収録されており、神学校における今後の「牧会」教育の方向性が示されています。他にも興味深い論文が満載です。

3 『宗教改革の今日的意義』

リフォームド・パンフレットXI

著者：正木牧人、吉田隆、袴田康裕、坂井純人、鎌野直人  
販売価格 800円

宗教改革500年を記念して、関西の4つの神学校の代表者による講演会を7月に開催しました。これはその講演集です。ルター、カルヴァン、ウェストミンスター、長老主義、ウェスレーの今日的意義が興味深く語られています。



## 2018年 神学校主要行事予定

### 第3学期

- 1月4日(木)・一斉開講準備
- 5日(金)・第3学期開講講演(講師:袴田康裕教授)
- 10日(水)・入学願書締め切り
- 2月9日(金)・全校祈祷日(講師:スパーリンク先生)
- 13日(火)・入学試験
- 3月2日(金)・第3学期最終講義
- 6日(火)ー9日(金)・リーディング・ピリオド(含補講)
- 13日(火)ー16日(金)・学期末試験

### 第1学期

- 4月5日(木)・一斉開講準備
- 6日(金)・第69回入学式、第1学期開講講演会(講師:坂井純人講師)
- 5月12日/19日/26日/6月2日・信徒神学講座  
(いずれも土曜日) テーマ「旧約学」(講師:大西良嗣講師、赤石純也講師)
- 22日(火)ー23日(水)・特別公開講義(講師:松谷好明先生)
- 24日(木)ー25日(金)・神学校リトリート(講師:朝岡勝先生)
- 29日(火)・日韓宣教研究所セミナー
- 6月8日(金)・第1学期最終講義
- 12日(火)ー15日(金)・リーディング・ピリオド(含補講)
- 19日(火)ー22日(金)・学期末試験
- 22日(金)・夏期伝道派遣式
- 26日(火)・第66回卒業式

### 夏期

- 6月27日(水)ー7月4日(水)・ギリシア語文法集中講義(1年生)
- 7月1日(日)ー8月31日(金)・夏期伝道(2、3年生)
- 6日(金)ー7日(土)・第42回夏期信徒講座(講師:袴田康裕教授)
- 10日(火)ー27日(金)・ヘブライ語文法集中講義(1年生)
- 8月7日(火)ー31日(金)・ヘブライ語文法集中講義(1年生)

### 第2学期

- 9月10日(月)・一斉開講準備
- 11日(火)・第2学期開講講演会(講師:大西良嗣講師)
- 9月22日/29日/10月6日/13日・信徒神学講座  
(いずれも土曜日) テーマ「ディアコニア」(講師:ステファン教授、相馬伸郎先生)
- 10月8日(月)ー10日(水)・第73回定期大会
- 11月16日(金)・第21回神戸改革派・神戸ルーテル神学校合同神学シンポジウム
- 30日(金)・第2学期最終講義
- 12月4日(火)ー7日(金)・リーディング・ピリオド(含補講)
- 11日(火)ー14日(金)・学期末試験
- 14日(金)・クリスマス礼拝・祝会

- (第3学期)2019年1月7日(月)・一斉開講準備
- 8日(火)・第3学期開講講演(講師:弓矢健児講師)